

弥一おじさんへ

ラジオネーム…もなか

田舎の閉校になった古い校舎を見ると、  
いつも弥一おじさんのことを思い出します。

おじさんは、小さな中学校で住み込みの用務員をしていて、  
おばさんも一緒に暮らしていたのがとても珍しく、  
親と一緒におじさんの家に行くのがとても楽しみでした。

手先の器用なおじさんは、学校のいろんなものを  
修理していましたよね。

校舎の裏手にあるおじさんの家に行くと、

ある日はのこぎりを引き、別な日は敷地の凸凹を直して、  
おじさんかっこいいなあ、って思っていたんですよ。

小さな私が土産の菓子折りをうまく持てずにおろおろ  
していると、おじさんは大きな声で笑って、「大きくなれば  
何でも出来るようになるから、焦らなくていいからな」って  
言って、私の頭をなでてくれたのが、とても嬉しかったなあ。

おじさんの家の居間には不思議な引き戸があって、いつも  
開けてみたくてたまらなかったんだけど、小さい頃は

「お化けが出るから開けちゃダメ」って言われて。

でも、4年生になったある日の夜。おじさんから

「引き戸の向こうに行ってみるかい?」と言われ、  
恐る恐る戸を開けると、古い木の床がつややかに  
磨き上げられた、長い廊下だったので驚きました。  
学校が建て替えられ、通いになり、定年を迎えたあと、  
今度は住み込みで温泉宿に越していきましたね。  
温泉の仕事は厳しかったのか、訪ねることが難しくなり、  
私が大人になったときには、おじさんはもう隠居して、  
当時の詳しい話を聞けなかったのが今でも残念です。  
でも、豪快な笑い声だけはずっと変わらなくて、  
朗らかなまま、90歳で天寿を全うしたのが救いです。  
あっという間に13回忌。おじさんは、今も変わらず  
おばさんと仲良くしているのでしょうかね。

## リクエスト曲

へ 涙の敗戦投手

／

舟木一夫

く